
自分

キバヤシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自分

【Zコード】

N1080B

【作者名】

キバヤシ

【あらすじ】

「あなたは何人目ですか?」突然の来訪者が告げる一言。自分を見失った青年が見つけた真実とは…

來訪者（前書き）

ごめんなさい。この遅筆ですが、よかつたら読んでやつてくれだれ
こましま（— —）ま

「あなたは何人目ですか？」

寝ぼけ眼を擦りながらドアを開けた途端に目の前の女がそう言った。

「あ……んー新手の勧誘か何かかい？悪いがそう言つのはお断りだ……普段から余り感情をださないようしてるのでやんわりと断り、俺はドアを閉めようとすると

「山下徹さん。アナタは何人目ですか？」
と再び、女が問う。

「どこで調べたか知らないけど、初対面の人にはフルネームであまり呼ばれたくないんだが……」

何も言わずにつっさと閉めてしまえば良かつたのに、ついつい会話を続けてしまう。

「昭和52年10月1日H県A市生まれ〇型、父雄三、母幸恵、三人家族の山下徹さん。アナタは何人目ですか？」

こちらの言つてる事が理解出来ないのだろうか……

「いい加減にしてくれないかな。」

こちらの反応を見るでも無く無表情に言う女にさすがに苛立ちを覚える。「だいたい、いきなり何人目と聞かれても意味が分からんだろう……俺は君とは初対面のはずだ。」
妙な自信がより語尾を強くする。

「よつて1人目だね。」

勢いにのつて、相手に合わせた語風で言い直してみる。

むろん、初対面という意味で
「そうですか。ではアナタが1人目という証拠を見せてもうれます
か？」

はあ
…

こういうやつには何を言つても駄目なんだろ？なあ…
呆れと苛立ちが湧き上がる中、何とか言葉を紡ぎ出す。

「あなたとは初対面。よつて一人目…んー言つてる意味解りません
か？」

問いただすような俺の言葉に考え込む女

なんとも気まずい沈黙

「じゃつ
バタンッ

俺は沈黙に耐えきれず、ドアを閉めた。

始めからこうすれば良かつた事に今更、気づきながら、ふと時計に
目をやると…

8時18分

やれやれ…1ヶ月前ならパンでもかじりながら、遅刻だとと飛び出
ているところかな。そんな過去の自分に呆れながらも

こんな時間に起きたのも1ヶ月ぶり…仕事を辞めても、生活リズムはきちんとしてないとなあつと一人ごち、俺は再び、布団に潜り込むのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1080b/>

自分

2010年10月9日06時51分発行